

高島の古代遺跡 その1

市内は、山あり川あり里あり湖ありの、自然豊かな風土です。この地形は人の定住につながり、市内にはそのことを示す400か所近い遺跡が残されています。今までに調査された低地遺跡から3つの遺跡を紹介します。

▼南市東遺跡
みなみいちひがし

主に弥生・古墳時代の集落跡
(安曇川町末広他所在)

昭和49年7月20日に開通した国鉄湖西線安曇川駅周辺の開発に伴う発掘調査で、今から約2000年前の弥生時代中期を中心とした



南市東遺跡出土初期須恵器

集落遺跡と、1500年前の古墳

時代中期の集落遺跡が重複する中で、遺物・遺構が検出されました。今までに、30数回の調査成果の積み上げがあります。その中で、駅東南調査区において、推定弥生時代と考える遺構面に、井戸跡と掘立柱倉庫に附属する、丸太梯子はしごが検出されました。これは、ムラの中心に近いことを意味していると考えられます。周辺には、八反田遺跡・下五反田遺跡が所在し、関連遺跡が広がりを見せています。

▼鴨遺跡

平安時代前期の官衙かんが
(高島町鴨所在)

鴨区耕地改良事業(ほ場整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査が昭和50年代に実施されました。特に昭和



鴨遺跡出土「朝」銘銅印

54年度の調査では、平安時代前期(貞観15年(873))と書かれた木簡出土の地方官衙(役所)と考えられる遺構・遺物が大量に検出されました。特に、緑釉陶器・灰釉陶器等の高級陶器が完形品の状態で出土しました。また、銅印「朝」をはじめ木製品の沓・小さな仏像なども出土しました。まさに、平安時代の地方役所に迷い込んだ思いがするような遺構・遺物群です。遺跡は現在、水田として活用されて保護されています。

▼天神畑・上御殿遺跡群
てんじんばた かみごてん

弥生・室町時代

(安曇川三尾里他所在)

安曇川町の南に位置する青井川の改修工事に先立って、平成20年代に埋蔵文化財発掘調査が実施されて大きな成果が得られました。日本列島に出土例がない、双環柄頭短剣鑄造の石製鏝型一対(弥生時代中期～後期)を始め、大型の土壁造り建物と考えられる遺構(古墳時代前期)など大陸や朝鮮半島にルーツを持つ遺物や遺構群が



三尾里から上御殿遺跡を望む

発見されています。まさに渡来人の足跡を感じる遺跡群です。安曇川以南の遺跡は、このように保存状態も良好で、今後多くの成果が期待できるでしょう。

閤文化財課 ☎(25)8559

編集 雑感

今年の4月から企画広報課に異動してきた(M)です。この部署に配属されたことにより、初めて毎月読んでいる広報誌がどのように作成されているのを知りました。今まで使用してこなかったシステム等を使うことになり、悪戦苦闘していますが、色々なことを少しずつ覚えながら頑張っていきたいと思っています。皆さま今年1年間よろしく願いいたします。(M)



広報たかしま

令和6年

6

月号
No.293

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒160-8502 滋賀県高島市新旭町北畑のろ番地

☎0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp